令和元年度　桜山小学校校内研究計画

**１　研究主題**

**主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもの育成**

**～子どもがＩＣＴを活用する授業を通して～**

**２　主題設定の理由**

（１）今日の教育課題から

次期学習指導要領改訂の経緯には、その背景として、「子どもたちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現する。」ことが示されている。そのために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることが求められている。

つまり、授業においては、子どもたち一人一人が課題を持って主体的に考え、友だちに自分の考えを説明したり、意見を交換したりするなどして学びを進め、課題を解決していく過程で深い学びが実現していくと考えられる。

（２）本校の教育目標から

本校の教育目標は「健やかで、確かな学力と豊かな心を身につけ、未来を力強く切り拓く子どもの育成」である。その中の「確かな学力」を受けて、本校のめざす児童像に「進んで学習する子」が掲げられている。そこで、今年度は昨年度までの研究を引き継ぎ、より主体的に取り組めるように「荒尾市学習過程スタンダード」の推進を図り、また、より効果的な学習が展開できるように「ＩＣＴを活用した授業改善」に取り組むことにした。この実践の積み重ねこそが、「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、未来を切り拓く子どもの育成に大きく寄与すると考える。

（３）子どもの実態から

本校の子どもは、素直で明るく、明確な指示や課題が与えられると、懸命に取り組もうとする態度は育ちつつある。しかし、主体的に考えて行動したり、自分や学級を高めようと努力したりする姿は十分に育っていない。

平成３０年度の標準学力検査（ＮＲＴ）の結果では、学年差はあるもののある一定の結果を収めている。これは朝活動の基礎学力タイムや放課後の個別指導により、基礎基本の定着を図ってきた成果だと言える。

しかし、平成３０年度県学力調査の結果では、県平均を大きく下回る観点も多く見られ、学年の差異も大きく見られる。このことから、学年間差をなくすための指導方法（学習スタンダード）の共通理解を図り、共通実践を図ることが急務であると考える。

　さらに授業中における子どもの学びに関する意識調査では、「ペアやグループで意見を聞いたり、伝えたり、質問したりできる。」は評価が高いのに対して、「意見をクラス全体に伝えたり、質問したり、質問に答えたりできる。」は評価が低い結果となった。このことから、全体の場で比較検討する効果的な手法を研究していく必要性があると考える。

**３　研究主題についての基本的な考え方**

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは、

「主体的な学び」学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び（学びへの高い関心・意欲）

「対話的な学び」子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める学び（協働的な学び）

「深い学び」習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び（活用的な学び）

子どもたち一人一人が課題を持ち、よりよい考えや表現を求めて学習活動に取り組み、学びのよさを実感し、次の学びへの意欲を持つことである。また、グループ内で友だちと協力して学んだり、グループを越えて課題解決の検証を行ったりしていく。互いの考えを伝え合うことで、自分と違う考えに出会い、再構築し、振り返ることで、自分や集団の考えを深めたり、発展させたりしていく学びととらえる。

これらの学びを行うだけでなく、その良さに気づき、活かすことがあじわうことになると考えている。

「子どもがＩＣＴを活用する授業」とは、

　　今までICTの活用といえば、教師が考えを巡らせていた。しかし、学びに向かう力が求められてる今、子どもたち自身が、問題の解決や、他者への説明の際の手段という確固たる目的を持って活用することが大切であると考える。

|  |
| --- |
| ①教師の「ＩＣＴ活用」を目指して【ステップ１】　　学習過程に沿った形でのＩＣＴ活用（主に実物投影機とデジタル教科書）を目指して教師主導型のＩＣＴ活用の日常化を目指す。②子どもの「ＩＣＴ利用」を目指して【ステップ２】　　子どもの発表や表現のツールとしてのＩＣＴ活用（主に実物投影機とデジタル教科書）を目指しながら、子どもがＩＣＴを活用した学習の日常化を図る。③子どもの「ＩＣＴ活用」を目指して【ステップ３】　　子どもたち一人一人のＩＣＴ活用のスキルアップを図りながら、子ども主体型のＩＣＴ活用の方策を探る。④子どもの「効果的なＩＣＴ活用」を目指して【ステップ４】　　子どもがICT機器やそのコンテンツ、機能を取捨選択し、よりよい方法をもとに、交流する。　 |

**４　研究の構想**

 (１) 研究の中心と仮説

|  |  |
| --- | --- |
| **研究の中心** | **研究の仮説** |
| 1. 学習過程スタンダードの確立
 | 　問題解決的な学習過程スタンダードを確立し、子どもが進んで授業を展開していくことで、学ぶ楽しさを実感し、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |
| 1. 効果的なＩＣＴ活用
 | 　子どもがＩＣＴを活用することで、興味を持って課題解決に取り組むようになり、他者との協働が効果的に行われ、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |
| 1. 学習規律の徹底と学習スキルの習熟
 | 学習規律の徹底を図り、自分の考えを表現する学習スキルの習熟を図ることで、学び合うことが楽しくなり、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |

（２）研究の進め方

|  |
| --- |
| 【仮説１：学習過程スタンダードの確立】　問題解決的な学習過程スタンダードを確立し、子どもが進んで授業を展開していくことで、学ぶ楽しさを実感し、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |

　子どもたちが主体的に学習に取り組むためには、一時間の流れに見通しを持ち、自分たちで授業を展開していくことが大切であると考える。そこで、荒尾市学習過程スタンダードをもとに、子どもが学習リーダーとして授業を展開することにする。

【問題解決的な学習過程スタンダード】

|  |
| --- |
| 問題(資料）の提示○前時までの振り返りから，本時の学習課題を気付かせる。＊子供の振り返りを活用し、学習指導要領に即したねらいから課題を導き出す。○子供たちが問いをもてるような問題(資料)を提示する。問いを持つ　問いの共有○自分で感じた疑問点や不明点・迷いを明らかにする。○全体に気付きを紹介し、解く内容を確認させる。○問題を解くための見通しをもてるかどうかの確認をする。○あらかじめゴール（まとめ）を書く□欄を黒板に設定し、課題とまとめの整合性を図る。○学び合う方法（お品書き・シラバス）を共有させる。○言語わざを提示する学習課題の設定○２段書き（①本時の目標文②考察文）とする自力解決○友だちに説明することを意識して，自分なりに課題に対する答えを書かせる。○自力解決が困難な子どもは、仲間から学ぶ。※全員に根拠を基にした考えを書かせる。そのための資料の提示や学習形態の工夫をする。集団解決【第一段階】意見や調べた事実の単純な意見集約　　　・自分の考えを発表する。【第二段階】学習課題に迫る学び合い（考察）　　　　・友だちの考えを聞く。　＊論点を整理する。　＊聞く視点を持たせる。　　　・多様な考え方を知る。価値の共有○学び合いによって出されたキーワードを活用し，学習課題のまとめを行う。振り返り視点１　学習課題を解決した上で，学習問題に対する自分の考えをまとめる。視点２　学び合いでの自己・友だちの良かった点をまとめる。視点３　これからさらに学習したいことをまとめる。 |
|  |
| 【仮説２：効果的なＩＣＴの活用】　子どもがＩＣＴを活用することで、興味を持って課題解決に取り組むようになり、他者との協働が効果的に行われ、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |

　　ＩＣＴを活用することで、教員の授業改善と子どもたちの学力向上を目指していきたいと考える。

○授業中における主体的・的な学びを促すＩＣＴの活用場面

課題やめあての確実な把握を促す活用

・教科書や図表を拡大提示し、視覚的にすることで、言葉だけで伝える以上に、分かりやすく課題やめあてを把握させる。

思考を促す場面での効果的な活用

・子どもが書いたノートを電子黒板に映し、書き込み等をしながら、分かりやすく発表させる。

知識の定着や技能の習熟、発表場面での活用

・アニメ―ションや動画等を活用して繰り返し見せることで、知識の定着、技能の習熟を図る。

　○職員のＩＣＴ活用のスキルアップを図る効果的な研修

　・ＩＣＴを活用した研究授業を計画的に実施する。

　・ＩＣＴを効果的に活用するための計画的な研修を実施する。

|  |
| --- |
| 【仮説３：学習規律の徹底と学習スキルの習熟】　学習規律の徹底を図り、自分の考えを表現する学習スキルの習熟を図ることで、学び合うことが楽しくなり、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。 |

子どもたちが主体的・的に学ぶためには、その基盤となる学習規律の徹底が重要であり、学び合う学習を展開していくために、自分の考えを表現する力、友だちの考えを聞く力も身に付ける必要があると考える。

|  |
| --- |
| ①学びの姿勢を統一的に徹底する。（四中校区の授業名人）　（グー・ペタ・ピン、返事はハイ、最後まではっきり話すなど）②ノートの字を丁寧に書く。③他者の意見を受容的に聞く。④学習規律、学習スキル（発表の仕方）など、統一した教室掲示を行う。⑤自己表現力を高めるためのスキルアップの場を設定する。（問答ゲーム・ビブリオバトルなど） |

（３）　研究の組織

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  | 　 | 　 | 低学年部 | 中学年部 | 高学年部 | 特別支援教育部 |
| 校長 |  | 教頭 | 　 | 全体会 |  | 専門部 | 学習過程スタンダード部 | 古閑 | 松浦 | 髙尾 | 松岡 |
| 　 |  | 　 | ＩＣＴ活用部 | 諌山 | 坂本 | 樫原 | 緒方 |
|  |  |  |  |  |  | 環境・検証部 | 境 | 永田 | 溜渕 | 田中 |
| 研究事務 | 坂門 |

（４）めざす子ども像

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 仮説１に基づく子ども像 | 仮説２に基づく子ども | 仮説３に基づく子ども像 |
|  | 学習過程スタンダードの確立 | 効果的なＩＣＴの活用 | 学習規律の徹底と学習スキルの習熟 |
| 低学年 | ・課題に即した考えを発表できる。・全ての子どもが、先生の指示やシナリオを基に、学習リーダーを務めることができる。 | 　ＩＣＴ等を使い、自分の考えを分かりやすく伝えようとする。 | ・正しい姿勢で話を聞く。・はっきりと発言する。・丁寧にノートを書く。 |
| 中学年 | ・課題に即して、自力解決、集団解決という段階を踏みながら考えをまとめることができる。・全ての子どもが、先生の助言やシナリオを基に、学習リーダーを務めることができる。 | ＩＣＴ等を活用し、自分の考えを他者に説明し、他者の考えのよさに気づく。 | ・相手が話しやすいように聞き、自分の考えは根拠に基づいて話す。・学習過程が分かるように、ノートを書く。 |
| 高学年 | ・課題に即して、自力解決、集団解決という段階を踏むよさに気づき、よりよい考えをまとめることができる。・全ての子どもが、時には先生に相談しながら、学習リーダーを務めることができる。 | ＩＣＴ等を活用し、自他の考えを表現するよさに気づき、より良い考え方がないか考えようとしている。 | ・自他の考えを踏まえて発言できる。・課題解決の経緯が分かるように、ノートを書く。 |

（５） 研究の構想図

**主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもの育成**

**～子どもがＩＣＴを活用する授業を通して～**

【学習過程スタンダードの確立】

問題解決的な学習スタンダードを確立し、子どもが進んで授業を展開していくことで、学ぶ楽しさを実感し、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。

**仮説２**

**仮説１**

【効果的なＩＣＴの活用】

　効果的にＩＣＴを活用することで、子どもが興味を持ち課題解決に取り組むようになり、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。

**仮説３**

【学習規律の徹底と学習スキルの習熟】

学習規律の徹底を図り、自分の考えを表現する学習スキルの習熟を図ることで、学び合うことが楽しくなり、主体的・対話的で深い学びをあじわう子どもが育つであろう。

子どもの実態